令和７年度 作文コンクール特集号

「小さな親切」運動

Small Kindness Movement

●発行所「小さな親切」運動松戸支部 松戸市松戸1879-1（松戸商工会議所内）TEL. 047-364-3111 FAX. 047-365-0150

「小さな親切」８ヵ条

1. 朝夕のあいさつをかならずしましょう。
2. はっきりした声で返事をしましょう。
3. 他人からの親切を心からうけ入れ「ありがとう」といいましょう。
4. 人から「ありがとう」といわれたら「どういたしまして」といいましょう。
5. 紙くずなどをやたらにすてないようにしましょう。
6. 電車やバスの中で、お年寄りや赤ちゃんをだいたおかあさんには席をゆずりましょう。
7. 人が困っているのを見たら手つだってあげましょう。
8. 他人のめいわくになることはやめましょう。

小学生の部

松戸市長賞

「本当のやさしさ」

松戸市立常盤平第二小学校　六年　細谷　舞

私は、去年に引き続き今年も児童会の副会長をしています。学校ではあいさつ運動をしたり、運動会では競技のかたわら児童会の役目を果たしたり、学校のみんなが気持ちよく過ごせるように活動してきました。たまに先生や友だちから感謝されるのがとても嬉しかったからです。しかし、夏休みのある日に、お父さんに言われた一言で、大切なことを見落としていたことに気づきました。

私は数年前から水泳と書道に通っていますが、それに加えて今年から学習塾にも通っています。夏休みが始まったころは自分から進んでお手伝いをしていたのですが、８月に入ってからは暑くてすぐに疲れてしまい、家族から頼まれないとやらないようになりました。そんなとき、お父さんに「学校ではみんなに親切にしていると聞いているけど、家では全然親切じゃないね。」と言われました。

その言葉を聞いて、私は自分の行動を振り返りました。学校ではみんなに親切にしたいと思って行動していたけれど、家では家族から親切を受ける立場だったのです。お父さんが暑い中、会社から帰ってきてもお風呂の掃除が終わっていなくてすぐにお風呂に入れないことがあったり、お母さんが洗濯物をたたんでいても手伝おうともしないことがありました。また、お兄ちゃんがリビングでオンライン授業を受けている時に、大声でお母さんと話をしたり、テレビを見たり、今から思うと迷惑をかけた時が多くありました。そんな私を誰も怒らずに、私の仕事を自分の仕事のように変わりにやってくれました。

「親切って、感謝をされないからやらないというのは間違っているな」と私は反省しました。そして、次の日から少しずつ自分の行動を変えてみることにしました。まず、朝早く起きて仕事に行くお父さんの見送りをしました。また、お母さんが洗濯をしていたら、頼まれなくてもハンガーを渡したり、干すのを手伝いました。お父さんが休みの日には庭の草むしりを一緒にやったり、ジョギングに一緒に出掛けたりもしました。

感謝の言葉はありませんでしたが、次第に私は嬉しい気持ちになってきました。感謝の言葉がなくても家族が喜んでくれていることが表情や仕草から伝わったからです。児童会の副会長として、私は「親切の大切さ」をみんなに伝えてきたつもりでした。でも、一番身近な家族に対して、その親切を忘れていたなんて、本当に恥ずかしいと思いました。これからは、学校だけでなく、家でも友だちにも小さな親切を積み重ねていける人になりたいです。どんなに忙しくても、困っている人に対して自分から少しでも行動することこそが本当の優しさだと思うからです。

松戸市議会議長賞

小さなしんせつ

松戸市立根木内小学校　一年　角田　遊菜

小さなしんせつってなんだろう。かんがえてみました。わたしは、しんせつはやさしいきもちだとおもいます。

わたしは、びょうきでからだがゆれます。こまっていると、おともだちがたすけてくれます。てをつないであるいてくれたり、おとしたものをいっしょにひろってくれたり、あさがおの水やりをてつだってくれたり。わたしのこころは、ポワっとあたたかくなります。ありがとうといいます。ほんとうは、さけびたいくらいうれしいです。まいにち、いろんなひとにたすけてもらっています。

わたしも、おともだちがこまっているときは、てつだってあげます。わからないことをおしえてあげたり、わすれものをしておともだちには、かしてあげます。しらないひとのおとしものも、ひろってとどけたりします。

それは、こまっているひとをしらんぷりするのが、いやだからです。わたしができることは、なんでもできるだけやってあげたいとおもっています。できないことは、おともだちや、ちかくにいるひとが、たすけてくれます。

わたしは、しんせつに小さい大きいはないとおもいます。だって、しんせつは、ひとをおもうやさしいきもちだからです。

松戸市教育長賞

わたしのまわりの親切なできごと

松戸市立常盤平第二小学校　二年　渡邊　芽依

わたしのまわりには、親切な人がたくさん山います。かぞく、親せき、友だち、友だちのお父さんお母さん、学校・ようち園・おけいこの先生、学校の先ぱい・ご近じょさん、数えてみたら100人くらいいました。もっと考えたら72人いるかもしれません。みんなはわたしにしあわせをくれます。だきしめてくれたり、ほっぺを手のひらですりすりしてくれたり、にこにこえがおであいさつをして、「めいちゃん。」とやさしく名まえをよんでくれます。わたしはその人たちにそうしてもらうと「親切でやさしいな。」と思います。近じょのおばあちゃんは、手づくりのぬかづけを作ってくれます。足がわるいのに、スーパーに行ってやさいをかってきてくれます。手づくりぬかどこにかってきたやさいを入れます。そして、８時間つけてからとり出すとあじがおいしくなるそうです。大へんなのに、おいしいぬかづけをたべさせてあげたいと思ってくれるおばあちゃんは親切だと思います。

わたしは自分の親切がわからなかったので、お母さんに聞きました。今、わたしは妹のトイレトレーニングをしています。図書かんでおむつはずれの本をかりました。よんで妹のトイレトレーニングのし方を学びました。本には「その子のサインを見つけて、声をかけてトイレへつれて行く。」と書いてありました。わたしは妹のサインがある時もない時もあったので、いちおう「トイレに行く？」と聞いてからつれて行きました。お母さんは「それも親切だよ。」と言いました。

親切はほっとするし、うれしい気もちになります。わたしは大すきな人に親切にしたいです。こまっている人のお手つだいをしてほっとしてもらいたいです。

松戸商工会議所会頭賞

小さな親切

松戸市立寒風台小学校　六年　竹内　陽優

ぼくは、親切とは、日常の中で、思いやりの気持ちを伝えて助け合うことだと思います。

ぼくは常日頃から親切を心かけています。たとえば、道に迷ってる人に道を教えてあげたり、荷物をたくさん持っている人を手伝ったり、悩んでいる友達の相談をきいたり、などをしたことがあります。

親切にすると相手がよろこんでくれるので、親切の大きさに関わらず自分もうれしくなりほこりがもてます。

またぼくは親切にしてもらったことがあります。

ぼくが一年生の時、校庭で転んでケガしてしまった時、六年生のお兄さんが優しく声をかけて保健室へ連れて行ってくれました。

親切にしてもらうと、とてもうれしくなり心が温かくなりました。

親切はたとえ小さくても、みんなをうれしい気持ちにしてくれます。親切は小さくても親切です。

だれかに親切にしてもらった人が次は誰かに親切にして、その人がまた他の人に親切をして…、そうやって親切の輪が広がっていけば誰もが誰かに親切をするのでいいなと思います。

親切をしたら、いつか、いつか必らず返ってくると思います。なのでみなさんも一日に一つでいいので親切を心がけてみてください。

松戸支部賞

しんせつとはやさしさ

松戸市立牧野原小学校　一年　森岡　奏音

わたしは、十がつ二十にち、ちちとははといっしょにせんきょにいきました。ちちと、ははがとうひょうしました。わたしがひとりでまっているとき、かかりのおにいさんが、いっしょにいてくれました。

「きてくれてありがとう。カードとふうせんいる？」とやさしくこえをかけてくれました。ひとりでさみしいきもちだったので、はなしかけてくれてうれしかったです。やさしいおにいさんにカードとふうせんをもらえてうれしかったです。

かえりみち、ふうせんをふくらませてあそんでいたら、てとくちをはなしてしまい、たかいところにとんでいってしまいました。そうするとちちがだっこをして、いっしょにとってくれました。これもちちのやさしさです。

このように、しんせつとはやさしさのことだとおもいます。わたしもじぶんにできることをするようにしています。

たとえばおうちでは、おてつだいをします。わたしのははは、いま、あしがいたいので、かわりに2かいにものをとりにいきます。かいだんがつらそうだからです。たのまれるまえにしたときは、

「きがきくね！ありがとう！」とすごくうれしそうです。わたしも、してよかった。ははがよろこんでくれてうれしいきもちになります。

しんせつにすることでやさしいきもちや、うれしいきもち、たのしいきもちがふえて、みんなげんきになれます。

ちいさなしんせつで、もっとまちが、やさしさであふれるといいなとおもいます。

優秀賞

おじいちゃんからの手紙

松戸市立根木内小学校　三年　北野　叶望

八月十三日の昼、わたしあてに小さなクリーム色の手紙がとどきました。送り先は、「協和」と書いてありました。おかしいなあと思って、ふうとうを開けて見たら、おじいちゃんからの手紙でした。手紙には、「根木内小学校三年生の北野叶望さんへ」と書いてありました。いつもいっしょに住んでいる、おじいちゃんからなんで手紙が来たのだろうと思ってとてもふしぎでした。手紙は、「かのんちゃん、赤いランドセルをせおって毎日元気に学校に通っていますか。」という言葉から始まっていました。

この手紙は、三年前におじいちゃんが、入学のおいわいに赤いランドセルを買ってくれた時に、「ランドセルを毎日元気にお使いいただいているあなたへ。おあずかりしていたこのお手紙を、千日の時をこえて、今、お送りします。」というランドセル会社におじいちゃんが送っていた手紙でした。手紙には「今身長は何センチですか。」とか「すきな勉強は何がすきかな。」また、「新しいお友達が、たくさんできているかな。」とも書いてありました。読んで、わたしは、おじいちゃんのやさしい気持ちがわかりました。

さいごに「おじいちゃんもおばあちゃんも八十才をとっくにすぎて体もあちこちいたいから、かのんがいっぱいお手つだいしてね。」と書いてありました。だから、おじいちゃんとおばあちゃんにいっぱいお手つだいをしよう、あといっぱい勉強をしようと心に決めました。

手紙っていうのは、とってもおもしろいんだなと思ったので、こんど、友達に手紙を出してみようと思いました。

優秀賞

小さな親切

松戸市立寒風台小学校　四年　吉田　莉生

私は、「小さな親切」とは「ありがとう」や「たすかります」などの心のこもったお礼だと思う。理由は「ありがとう」と言われると心が温かく、ほっこりするサウナみたいな感じになり、大きな親切をされたような気持ちになるからだ。

でも、なぜ良い事をしたのに、小さな親切がかえってくるんだろう？と私は考えた。まっ先にうかんだのがこの言葉。

「なさけは人のためならず」意味は、人に親切にすると、相手だけではなく、必ず自分にかえってくるということわざである。小さな親切も、してもらった人も、した人も両方いい気持ちになると思う。それらのことから、人に親切にしてもらったら、お礼や、頭をさげたり、手をあわせたりするといいと思う。だけど、「あざます」とかへんな発音で言ってしまうと、いやな気持ちになることもあるから、きちんと心をこめて「ありがとうございました」と言う方がよいと思う。

ほかにも「おしい!!」や「ドンマイ!!」も小さな親切だと思う。なぜかというと、大縄などで失ぱいしてしまった子に向かって「なにやってんの？」とか、きずつく言葉を言ってしまうと、もうやりたくないな、となってしまうから、「おしいおしい!!」や「ドンマイ!!」と言ってはげまして、その子が「またやってみる」という気持ちになって、練習して、できるようになっていくと私もうれしい。しかも、それらの言葉を使うと、チームワークができて、友だちもふえていくと思う。だから、きずつく言葉を言わないという事を心にきざみ、生きていきたい。

私は心のこもったお礼や、はげます言葉をかけ、きずつく言葉を言わず、友だちの気持ちをよく考え、学校生活を楽しんでいきたい。

中学生の部

松戸市長賞

小さな親切がつなぐ大きな力

松戸市立牧野原中学校　三年　石川　真暖

「今年も生徒会に立候補してみないか。」

学年の先生にそう言われたとき、正直迷った。昨年から副会長として全力でやってきたが、部活との両立が難しく、逆に迷惑をかけてしまっているのではないのかという不安が大きかった。しかし、もっと挑戦して自分の可能性を広げたいという気持ちもあった。

「少しでもやりたいという気持ちがあるなら、やるべきだと思うよ。」

担任の先生にそう言われた。少しだけ気持ちが楽になったように感じた。それと同時にもう一度、生徒会役員として頑張ってみたい、という気持ちも顔を出した。自分を信じ、私は生徒会長に立候補することを決めた。

選挙運動が始まると、私は人の優しさに何度も助けられた。吹奏楽部の仲間であり、親友は、私の推薦者を務めてくれた。夜遅くまで真剣に応援演説の言葉を考えてくれた。また、朝の挨拶運動に一緒に立ってくれたクラスメイト、私の名前が書かれたタスキを作ってくれた子。どれも大げさなことではない。だけどそのひとつひとつの優しさが私にとっては胸がいっぱいになるぐらい嬉しかった。

生徒会選挙当日、蒸し暑い体育館で行われた。とても緊張していたためか、原稿を落としてしまったことにも気づくことができなかった。本番前、最後の練習の時にやっとないことに気づき、かなり焦っていた。その時、友達が見つけ持ってきてくれた。そして原稿を開くと小さく「頑張れ！応援してるよ！」と書いてあった。予想もしなかった親切に胸が熱くなった。その瞬間、「私もこうやって人を支えられる存在になりたい」と心から思ったのだ。

私は当選し今は生徒会長として、吹奏楽部ではセクションリーダーを務めている。今思えば、中学校生活の中で一番嬉しかったのは、大きな成功よりも、誰かに助けてもらったり、それを恩返しできたことだと思う。生徒会役員の仕事は目立つことばかりではない。準備で完全下校ギリギリまで残ったり、夜遅くまで作業したりすることも誰にも気づかれない裏方での活動も多い。それでも、その一つひとつが学校の笑顔や思い出を作っていくのだと知った。

私が迷っていた時に声をかけてくださった担任の先生、応援演説の原稿を考え推薦者を務めてくれた親友、原稿を探してくれた友達。どれも当たり前のように差し出された親切だったが、それらが私を強くし、「ひとりじゃない」と思わせ、何度も救ってくれた。立候補を迷っていた私が今立ち続けられているのは、たくさんの優しさに出会えたからだ。だから今度は私が、立ち止まる誰かの背中をそっと押す番だと思う。あの時もらった親切を忘れずに、私はその優しさを未来へとつなげる存在でありたい。

松戸市議会議長賞
負けた私と、最後のひと声

専修大学松戸中学校　三年　菊池　真梛

中学校最後の個人戦練習試合大会の日、私は緊張と期待で胸がいっぱいだった。これまでの部活で積み重ねてきた練習の成果を見せる最後の場面。しかし、試合が始まると、自分の思うようなプレーができず、あっけなく負けてしまった。周りを見渡すと、他の部員たちは少なくとも一試合は勝っていて、歓声や笑顔がコートにあふれていた。私はその場で、勝てなかった悔しさ、なんだか吹っきれたような気持ち、そしてどこかなげやりな感覚が入り混じり、感情の整理がつかないまま立ち尽くしていた。

試合後の控えコートでは、皆が片付けや次の試合の準備をしている。私は自分のラケットを握りながら、どこか遠くを見るようにして友達の試合を眺めていた。彼らのボールを追う姿、全力でラリーを続ける姿はまぶしく、同時に少し切なく感じた。負けた私は、ただ見守ることしかできない。だけどその時、ふと「せめて最後に、声をかけることはできるかもしれない。」と思った。

決勝戦まで進んだ友達は、コートの隅から隅まで全力で走り回り、最後には惜しくも負けてしまった。汗でびっしょりになり、悔しそうに肩を落とす友達の横で、私はそっと近づき、ラケットを片付ける手伝いをした。そして「今日はよくがんばったね。」と声をかけた。友達は照れくさそうに笑い、「ありがとう。」と返してくれた。その時、私は思った。勝敗や得点が大事なのではない。誰かのためにそばにいて、ほんの少し手助けすることも立派な親切であり、大切な行動なのだと。

私はその瞬間、初めて負けた自分でも誰かの力になれるということを実感した。勝利は手にできなかったけれど、声をかけたり手を貸すことで友達の一日を少しだけ楽にできたのだ。小さな親切は、形に見えなくても確かに相手に届くのだと感じた瞬間だった。

試合には負けたけれど、仲間の真剣な姿に触れ、自分も少し支えになれたことが心に残った。帰り道、ラケットを肩にかけながら、高校ではテニスをやらないと決めていた自分の心が少し揺らいでいることに気づいた。負けても、自分の小さな行動で誰かの支えになれるなら、もう一度テニスに挑戦してもいいかもしれない。

小さな親切は、目に見える成果だけでなく、人の心を温め、時には自分の気持ちさえも動かす力を持っている。あの日の出来事は、勝ち負けだけでは測れない、日常の中での小さな気づきや、仲間との関わりの大切さを教えてくれた。私はこれからも、誰かのためにできる小さな親切を大事にし、その行動が誰かの一日を少しでも明るくできるように心がけていきたいと思う。

松戸市教育長賞
「小さな親切」

松戸市立第五中学校　一年　松元　爽

「ハァーハァー」といつも息を切らしながら階段を登るぼくのおばあちゃん。

ぼくのおばあちゃんは、ぼくと同じ団地の五階に住んでいる。エレベーターもなく、年をとったおばあちゃんにはとてもきつく、いつも息を切らしながら登っている。買い物をした日は更にきつくとてもしんどい。だからぼくは、少しでも力になれるなら助けたいと思い、よくおばあちゃんと一緒に買い物に行き、荷物を家まで運んでいる。

おばあちゃんは、

「いつも本当にありがとう。」

と笑顔で言ってくれる。

ぼくは、少しでもおばあちゃんの力になれたことが嬉しくて、おばあちゃんの笑顔ををみるたび心が温かくなる。

おばあちゃんの友達も、同じ団地の五階に住んでいて、水や荷物を運ぶのに困っていた事があった。

「大丈夫ですか。」

「良かったら、ぼく家まで運びますよ。」

と声をかけ手伝った事がある。その時、ぼくは、自分にできることがあれば手伝いたいなと思っただけだったのだが、おばあちゃんの友達にすごく感謝され、

「すごく助かったわ。今は携帯で注文したり配達もしてくれるみたいだけど、携帯の操作が苦手でね。」

「本当に助かったわ。ありがとう。」

と満面の笑顔で言われ、少しでも力になれたことや助けになれたことが嬉しくて、心が温かくなった。

ぼくの母は常々、

「困っている人がいたら、助けてあげられる人になってね。」

「ただ、相手が本当に困っていて助けてほしいと思っているのか、声をかけた時の反応をよく見て、言葉を交わす中で判断してね。お節介になってしまうこともあるから。」

とよく言っている。そして、その言葉通り母は状況を見て困っている人を助けたり、場合によっては、お節介にならないような対応をしている。ぼくは、そんな母の姿を見てきて、親切とは何なのか考えさせられた。

ぼくは、おばあちゃんやおばあちゃんの友達の手助けをした時に、大変さや世の中が便利になってきているけれど、それを使いこなす事が難しい人もいることを知り、ぼく自身色々なことを改めて考えたり、知ることができた体験だった。この体験を生かして、人に寄り添い助けられる人になりたいと思う。

ぼくは、これからも困っている人がいたら助けたいと思う。そして、とても難しいことだけれど、相手の気持ちをくみ取りながら対応できる人にもなりたいと思う。

これからも、小さな親切を増やしていきたい。

松戸商工会議所会頭賞
ふるさとの親切

専修大学松戸中学校　一年　鈴木　琴子

私の母の故郷は京都府舞鶴市の佐波賀という地域で、小さい頃はよく船に乗って遊びに行っていたそうです。母や祖母から「佐波賀はいいところだよ」と話してもらったことがあります。母や祖母が笑顔で話していたので、きっと素敵な場所だろうと思っていましたが、実際、私は佐波賀がどんな場所かあまり知らなかったのです。

しかし、生まれてからすぐ、いま住んでいる千葉県に引っ越した母が、急に、

「私、佐波賀に帰省するよ。」

と私に伝えてきました。ちょうどそのときの季節が、五月のゴールデンウィークでした。私は、ゴールデンウィークに旅行に行きたいと言っていたから、母に、

「なぜ佐波賀に帰ってしまうの、旅行には行けないの。」

と、母に聞いてみました。すると、母がおしえてくれました。母のいとこが亡くなってしまったのです。法事のため、佐波賀へ帰省するけれど、一泊したらもどってくると母は言いました。私はうまく言葉がでてこなくて、呆然と立ちつくしていました。

母と一緒に祖父母と、母の弟も佐波賀に行くと聞き、お見送りをしに祖父母の家に入ると、一つの写真を祖父が見せてくれました。母のいとこの若い頃の写真でした。会ったことがない人でも、私はすごく悲しくなり、胸が苦しく、痛く、しめつけられるような気持ちになりました。

一日と少し経った後、母が家にもどってきました。母はつかれていたけれど、どこかうれしそうな顔をしていて、私が母に、

「どうだった」と聞くと、「家族も、近所の人も、みんな、かわっていなかったよ。」と言って、私に話を聞かせてくれました。

母が帰省した理由は、法事のほかに、家のまわりを整えることでした。その気持ちで母が実家に帰ると、家が綺麗になっていました。実は、母の親戚や、近所の人が、家を片付けてくれていたのです。すると、近所の人が、「法事とか、色々大変でしょう。困ったときは、まわりとの助けあいだと思いますよ。」と声をかけてもらって、おかげで少し楽に過ごせると、母は何度もお礼を言ったそうです。

その話を聞いて、そういえば、祖母もそういった気配りができる人だなあ、と感じました。庭の手入れをしてくれたり、花を買って植えてくれたり、「さりげなく」親切ができる人が、佐波賀にはたくさんいるのだと思います。

私のみのまわりでも、公園や道路を清掃する、「地域清掃」があります。ご老人から、小学生くらいの子供まで、参加している人たちは、様々です。佐波賀の話を聞いてから、まわりの「親切」に、よく気づくようになりました。「私のふるさと」と、「母のふるさと」、少しだけ、つながりが見えた気がします。

松戸支部賞
僕のいままでの小さな親切

松戸市立第五中学校　一年　敦賀谷颯佑

僕が考える「小さな親切」とは、人を思いやる気持ちを行動に表したものだと思います。

僕がいままでにした小さな親切はいくつかあります。記憶に残っているものは電車やバスで自分が座っていて他に空席がない時に高齢者の方が乗って来た時のことです。その方は乗って来てすぐに席が空いていないことに気づき僕のななめ前あたりに立っていました。僕は席をゆずろうと思ったけどドキドキしてすぐには声をかけることはできませんでした。その方が目線を動かした時にその方を見ていた僕と目が合いました。そこで僕は勇気を出してその方に

「ここに座ってください。」

と立ちながら声をかけました。その方はほほえみ席に座って

「ありがとう。」

と言ってくれました。僕はその時もっと早く声をかけることができればよかったと思いました。

他の出来事では僕の家の近所に僕が小さい頃から声をかけてくれるおじいちゃんとおばあちゃんがいました。僕が家の前で遊んでいると二人が買い物の帰りによく歩いていました。買ってきたお菓子をよくくれました。よくくれるのでいつも悪いからいいよと何度か断ろうとしたけどその度に僕の喜ぶ顔を見ると嬉しいからと言ってくれました。僕は時々お母さんと一緒にお礼にご飯のおかずなどを届けたりもしていました。おじいちゃんとおばあちゃんは手と足が悪くなってきて料理をすることができないからいつもお惣菜を買って届けたりもしました。僕とお母さんは大きな鍋で作った豚汁やカレーライスを届けたりもしました。スーパーで買えないような物を食べて欲しいと思ったからです。僕も二人の笑顔を見るのが嬉しかったです。買い物で重いものを買って歩いているのを見た時は家の前まで一緒に運ぶよと言って一緒に運びました。

僕はこれらの小さな親切の経験を通してお互い思いやる気持ちが大切だと思いました。生活の中で小さな助けをも求めている人が沢山いると思います。高齢者の方や体が不自由な方、ヘルプマークをつけている方、妊婦の人や小さい赤ちゃんや子供を連れている方それ以外でも今困っているかな？という人に会った時にそれを感じて手助けできる人になりたいです。必ずしなければいけないことではないけどそういう気持ちがあれば自然とそのような行動をとれると思います。僕はこれからも相手を思いやることを大切にして思い立ったらすぐ行動に移せるようになりたいです。そして思い立ったらすぐに行動に移すということは小さな親切だけでなく勉強面や生活面でも生かせると思うので様々な面で生かしたいです。

優秀賞
私の大好きな髪、あなたの元へ

松戸市立第二中学校　二年　松木　美和

「すごい、私の髪ってこんなに長かったの。」

美容師さんから渡されたのは、今切ったばかりの私の髪の毛の束だった。受け取った私はその長さと、重さに驚きつつ、また同時にこうも思った。この髪の毛で作ったウィッグはどんなものになるのだろうかと。

「ヘアアレンジってわくわくする！」

小学生の時、私はよくヘアアレンジをしていて、毎日少しづつ伸びていくこの髪が大好きだった。

ある日、私は「ヘアドネーション」という、病気や事故などで髪の毛を失った子供たちに、医療用ウィッグを提供するという、髪の毛の寄付活動があることを知った。

私は、自分の髪が誰かのためになるなら、私も協力したいと思った。だが、髪を長く伸ばすのは想像以上にとても大変なことだった。

「やっぱり暑いよー！もう髪を切りたい！」

そう何度もくじけそうになった。それでも続けたのは、ウィッグを待つ子達のためだ。それに、ヘアドネーションには三十一センチメートル以上が必要で、ウィッグの型も長いロングヘアが好まれる。そのため、私は頑張って伸ばしていた。友達が髪を切って、可愛くなった姿を見るとうらやましくなり何度も切りたいと思った。自分の髪を洗うのも乾かすのも大変で、伸びていくこの髪が大好きなはずなのにいつの間にか私はめんどくさい、切ってしまいたいという気持ちを抱くようになった。それでも、気分に合わせてヘアアレンジをしながら頑張って伸ばしていった。この髪を寄付のために切る日が待ち遠しかった。

「あぁ、本当に切っちゃうのか。」

美容師さんは私の髪を小分けにして結わえた。何度も切りたくて待ちわびたはずの今日を、なぜか私は寂しいと感じていた。

「自分で一束切ってみますか。」

初めて自分の髪を自分で切った。はさみの刃がうまく通らなかった。髪の毛が別れを惜しみ抵抗しているようにも感じた。

「短い！それにすごく軽いよ。」

五年間伸ばした髪は、顎下のボブになった。全体的に五十センチメートルほど切り、そのうち四十五センチメートルを寄付することにした。私と共に長い時を過ごした髪の毛は、丁寧にまとめて袋に入れられ、ウィッグを希望する子達のもとへと旅立っていく。

「じゃあね。」

その言葉には、うれしくもなんだか寂しいような感傷的な響きがあった。

この経験で、私は学んだことがある。それは、小さな事も少しずつ積み重ねていけば、誰かの幸せや笑顔を作る力になるという事だ。髪を長く伸ばすという初めての挑戦をした私、努力をし続ける事の大変さを改めて感じた。

他にも、人のために行動することの大切さや相手を思いやる気持ちを持つことの重要性を実感する事ができ少し成長できた気がした。

優秀賞
「私が思う小さな親切」

松戸市立牧野原中学校　三年　小林　愛依

「親切」とはどういうことを指すのか。親切だ、と感じる瞬間は人それぞれだと思う。私は、小さな親切の意味を考えたとき、相手から優しくされていい気持ちになったり、相手をいい気持ちにさせたりすること。また、人のためを思って行動するということ。それらが、「親切」という言葉の意味ではないかと考えた。人に親切にするということは、相手にいいことが生じるだけでなく、同時に自分自身の成長にもつながっていると思った。

私が、このように思うようになったきっかけは学校生活にある。私が通う学校では、生徒全員が「三本柱」というものに重きを向いて日々過ごしていたからだ。

三本柱というものは、挨拶・歌声・清掃の三つから形成されている目標のようなものである。例えば、挨拶をする時。ただ、聞こえないような声で適当に挨拶をするだけでは、相手を不快にさせてしまうかもしれない。けれども、大きな声で目を見て元気な挨拶をすることで、いい印象を与えることができ、相手をいい気持ちにさせることもできると思う。

次に、歌声活動をする時。リーダーがみんなに意見を言ったり、口出しをしたりするのは大変なことだと思う。しかし、勇気をもって意見を言ってくれることで、より良い合唱にすることができる。

最後に、清掃をする時。自分の手で汚いところを拭く、隅々まで掃く、など汚いところを掃除するのはあまりみんながやりたがることではない。だが、一人一人が頑張って掃除することで学校がきれいになり、より良い場にできると思う。どれも相手をいい気持ちにさせ、同時に自分にもいい影響を与えてくれている。これらのことから私は、小さな親切のとても重要な役割に気づくことができた。

この作文を書いたことで、身近にはたくさんの親切があり、その親切に気づかなかったとしても毎日どこかで親切というものは生まれ続けているのだと気がついた。

親切というものは、特別な人だけにできることだけじゃない。電車の席を譲ってあげることや、道に迷っている人を案内してあげること。感謝の気持ちを伝えることだって小さな親切だ。その何気ない親切が、誰かの心に大きな変化をもたらすかもしれない。世界中の人が勇気を出して毎日一つでも親切をしたら、その勇気がこの世界を今よりももっと心地よくてあたたかい場にしてくれると思う。だから私は、この世界中にたくさんの親切が広がっていってほしい。

親切心を全国に広げよう「小さな親切」運動

昭和38年3月、東京大学の卒業式で茅誠司総長が卒業生に贈った言葉「『小さな親切』を勇気をもってやっていただきたい」がきっかけとなり、同年6月に始まった「小さな親切運動」。「人には親切に」を目標に、「できる親切はみんなでしよう、それが社会の習慣となるように」をスローガンに掲げた運動です。「人に対する優しさ、思いやり、親切心を日本国中に広げよう」。この思いは今や全国に広がり、東京にある公益社団法人「小さな親切」運動本部を中心に、32道府県本部に129の支部、全国会員約13万人を誇る全国的な組織にまで発展しました。

ここ松戸にも、「小さな親切」運動松戸支部があります。

「小さな親切」運動の加入については会費が必要です。

■「小さな親切」運動　松戸支部
〒271-0092 松戸市松戸1879-1
松戸商工会議所内
☎ 047-364-3111

■「小さな親切」運動　本部
〒101-0061 千代田区神田三崎町2-20-4
☎ 03-3263-2866

■会費（年会費）
一般会員
個人　2,000円
団体（10名以上）
大人　500円
小・中・高校生　300円
その他、各種会員あり

詳細は松戸支部事務局☎047-364-3111までお問い合わせ下さい。